



東シナ海展望所



東シナ海展望所から眺望できる落陽



瀬風呂（トンボレ）



ハイビスカスとツマベニチヨウ



郷土料理



石垣とツワブキ



巨石群



田高神社



古道（参道跡）

石に囲まれた里・吉田集落の風土と文化

世界自然遺産屋久島の北西に位置する吉田集落は、前面の口永良部島が浮かぶ東シナ海を望み、背後には九州最高峰の宮之浦岳へとつづく山群のひとつ吉田岳がそびえる風光明媚な斜面地形に広がっています。集落の人口は現在約210人、世帯数は117世帯とけっして大きくはないですが、半農半漁の生活を反映した棚田と畑が点在し、さらに屋久島名産のサバ節工場があります。北西に位置することから夕日の景勝地でもあり、訪れるひとびとに集落の佇まいとともに静かな感動を与えてくれます。また平成14年にはNHK朝の連続ドラマ「まんてん」のロケ地としても全国的に脚光をあび、翌年からは集落の方々による「まんてん祭り」が開催されるようになりました。さて、この集落の最大の魅力は、集落の家々や小屋の周囲に点在する巨石の数々です。他の地域ならば思いつきもしない場所に巨石が居座る姿は、集落がまるごとパワースポットととらえることができるくらいの面白さがあります。また、平家の落人伝説や独特の海岸入浴法でもある瀬風呂（トンボレ）とまだまだ生活に密着した魅力が満載しています。そんな吉田集落をぜひぜひ楽しんでください。

吉田集落の散策を
地元の方と楽しみませんか？
私たちが御案内いたします。



『吉田集落 あまんか(歩こう)』里の語り部マップ

① 岡エビス様

この集落は、NHK朝の連続ドラマ「まんてん」の放送ロケ地として、全国に一躍脚光を浴びた集落です。この岡エビス様は、この放送の最初に挿入映像として、このときに作られたものです。



集落内には、この他、船田公民館(現在の吉田生活館)・火の見やぐら・吉田霊園、トンボレ・鬼火焚きなどのロケ地があります。

エビス様は、屋久島では、浜エビス、村エビス、家のエビス(個人で拝む)があります。

② 古道(参道)跡



この古道(参道)は、元日に村人が集落の下にある砂浜(下の浜)の海水で身を清め、大岩に合掌し、森山神社に通じる参道をぬって日高神社に参拝するのが

ならわしになっていました。現在、この石積みの参道は、僅かしか残っていないため、石積みの跡を復元して、日高神社下の石積みが昔の面影を残しています。

③ 日高神社の由来

平家落人伝承によれば、元暦二年(1185年)三月、壇ノ浦に敗れた平家一族は、安徳天皇ともども西海に逃れ、五月鬼界島(現硫黄島)に上陸し、一族家臣の内清房、忠綱は建仁二年(1202年)屋久島へ移り、また、資盛、有盛、行盛らは鬼界島(硫黄島)へ移るため、六カ月程屋久島に滞在しました。



落人は、最初吉田に上陸し、ここから島内各地へ分散したといわれています。

④ 黒石の由来



日高神社下に貞享二年(1685年)に日蓮(法華宗)の寺があり、寺名は本満寺でありました。

今でも日高神社境内で黒石に仏法を書いた小石が出るのは、この寺院(禅僧)が書いたものです。

寺はその後、吉田の庄屋惣左衛門の物となり、流人等も庄屋預かりとなり、金山などで働いていたといわれています。

ここに祀られている黒石は、何処から運ばれてきたか年代は定かではありませんが、おそらく日高阿波前司吉房が、1200年代に源氏からの攻撃に備え、屋久島・口永良部島に城壁を構えた時代に、口永良部島の火山岩をこの地に運んだのではないかという言い伝えがあります。

⑤ 吉田霊園

この吉田集落の墓地は、昭和59年に共同墓地に整備されました。



屋久島は、もとは律宗でありましたが、種子島出身で日蓮(法華)宗の祖師日隆の弟

子であった日典の布教を契機に、日蓮(法華)宗一色となりました。日典自身は、種子島氏第11代時氏によって石子詰め(石積み)の刑に処され、志半ばで倒れたと伝承されています。その後日典の弟弟子であった日良、ついで日増などによって日蓮(法華)宗が広がり、この吉田集落では、日高神社下に貞享二年(1685年)に日蓮(法華)宗の寺があり、寺名は本満寺といいました。

⑥ 森山神社の由来



森山神社は浜神宮ともいいます。古来、平家の落人が最初に着いたというこの神社の下の砂浜(下の浜)の海水で身を清め、

大岩に合掌して、この森山神社に通じる石積みの参道をぬって、上の日高神社に参拝していました。

この森山神社には「手置帆負神」が祀られており、安産の神様といわれています。古くは「モイヤマ(森山)」が「オモイヤマ」と呼ばれていました。「モイヤマ」は、集落の中程にあった古木の繁る平地の聖地であって、古くから農業の神であったらしく、木を伐るとたりがあるといわれていました。

岳参りの前日には、この森山神社で宮籠りの式を執り行い、岳参り当日は、早朝、この下の浜で身を清め、白砂を取ってこの境内から出発します。旧暦の9月13日は、森山神社祭が行われます。

⑦ 祀りの大岩の由来

古来から、元日の日に村人は、集落の真下にある砂浜(下の浜)の海水で身を清め、この大岩に合掌し、森山神社・日高神社に参拝していました。この大岩が平家の落人が上陸したときの目印となり、平和の守神として大しめ縄を飾って、集落の人々に崇められている岩であります。



⑧ 日高水産(サバ節工場)



サバ節の製造を行っている日高水産は、集落唯一の雇用の場です。

ここで生産される、サバの枯節は関東地方に出荷され、うどんやそばの出汁として貴重な特産品になっています。また、一夜干しのなまり節は、スライスしてらっきょうや高菜等と混ぜて食べると絶品です。また、屋久護摩さばの漁場は、一湊矢野岬沖20kmの屋久曾根や屋久島西海岸一帯で操業され、サバ一本釣りは鮮度が良く、首折れサバとして有名です。

⑨ トンボレ(瀬風呂)

吉田集落の海岸には、瀬の岩を利用した瀬風呂(地元ではトンボレという)が6箇所あります。1~2名が入れる自然形の岩壺を利用して、石ころを焚火で焼き、塩水と水を加えたものをその温熱で湯を沸かして岩風呂に入っていました。素もぐり漁の後に体を温め



たり、農閑期にはこのなかに、鉄分の多い出水や薬草等を入れて、疲労回復や吹出物等を治療したりして体を癒していました。

⑩ 東シナ海展望所

集落の前には東シナ海を望み、海上に沈む夕陽の絶景は、近年増加する屋久島の観光客の観光スポットとして脚光を浴びています。展望所から、平家の落人伝承の島、硫黄島(鬼界ヶ島)、黒島や口永良部島が眺望できます。夕陽は、冬期は屋久島灯台と口永良部島との間に沈み、夏期は黒島と口永良部島の間に沈みます。



◎ 岳参り

吉田集落では、岳参りは春(旧暦4月)と秋(旧暦9月)の2回行われます。岳参りの前日には、この森山神社で宮籠りの式を執り行い、岳参り当日は、早朝、この下の浜で身を清め、白砂を取ってこの境内から出発します。

古来は日高神社から山越えをして、吉田岳(1,165m)頂上まで2日かかりで参っていましたが、現在は、一湊地区の白川上流の林道から約2時間の日帰りルートで岳参りを行っています。頂上への下り広場で、耳踊りを披露し、頂上で作務衣に着替えて拝み、岳の神(石祠)にさい銭を上げて集落の平安と五穀豊穡や漁労の安全と豊漁を祈願します。帰りにはジャクダン(馬酔木)の枝を土産に持って帰ります。

屋久島の岳参りは、集落から見える山が前岳で、その奥にあって見えない山を奥岳といいます。奥岳のなかで際立って高い3つの山、すなわち宮之浦岳、永田岳、栗生岳の三山を「御岳」とも「三岳」ともいって、一品宝壽(三岳)大権現の石塔があります。このように集落から見える前岳に参って祈願し、そのあと、見えないけれども彼方の奥にそびえる御岳に参拝し、徐災招福と豊饒を祈願することになっています。前岳はいつも見えていて村をじっと見守り、あたたかく包んでくれる親しい山ですが、奥岳に対しては、畏敬の念と若干の霊的な恐ろしさを感じて、修験道や山姫伝承、ヤマワロ(山童)等の妖怪伝承や山岳信仰があります。

岳参りは、代表者を中心とする集落の集団が春秋に登山し、普段は行かない異郷の山上世界



に行き、清らかな岳の空気を吸い、すがすがしい気分になるとともに恐ろしいカミの霊気を俗界に伝え、俗界の浄化と再生を期待する行事であるといえます。

◎ 吉田集落の山姫伝説

ある年のこと。吉田の若者が白銀山に炭焼きに行きました。ところが山の中で、背の高い、腰にシダを巻きつけたはだかの女に出会ったそうです。よく見ると髪は紫色皮膚はまっ白で、いままでに見たこともない美しい女であったそうです。次の瞬間「山姫だ!」と直感した若者は、急いでかたわらの榊の枝を折ってそれを振りながら一目散に山をかけ下りました。榊の枝は魔よけになるといわれており、若者はそのおかげで危うく命びろいをしたといわれています。

吉田集落あまなか（歩こう）マップ

「まんてん・平家の里」

吉田岳 1,165.2m

